

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.18
2014.June

発行者 琉球病院事務部長
吉永 可公

院長

村上優 (むらかみ・まさる)
1949年生まれ。
74年九州大学医学部卒業。
86年国立肥前療養所精神科医長。2002年国立肥前療養所臨床研究部長、
同年King's College London Institute of Psychiatry (司法精神医学研究所) 長期研修。
2005年花巻病院臨床研究部長(兼任)を経て、2006年琉球病院長に就任。
日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事、NGOベンチャー会の副会長として活躍。



基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

病棟等建替整備工事が始まりました

事務部長 吉永 可公

琉球病院では全職員参加型の病院改革を進め、専門医療においては重度心身障害児(者)治療、治療抵抗性精神疾患の治療、認知症治療、社会復帰の促進、アルコール・薬物医療や児童思春期医療などに力を入れております。これに伴い、外来患者数が増加し、そのニーズに合わせた病棟、作業療法棟や療育棟が必要となっていました。

重心病棟は築38年、認知症病棟は築33年、精神科病棟は築32年が経過し、老朽化が著しいため、建替えが望まれていたところでした。

病床数は、認知症病棟56床、精神科(女性)病棟56床、精神科(男性)病棟56床で、診療機能の中央化を図り、また、重心病棟においては、45床2棟90床で、療育棟を合わせた3階建となっております。

病棟建替においては仮設病棟を要しない計画といたしました。

本工事は、1期と2期からなり、1期工事については、認知症病棟、精神科病棟(男性病棟、女性病棟)の建替え、2期工事では、重度心身障害児(者)病棟、療育棟、作業療法棟の建替工事をいたします。

1期工事の安全祈願祭を4月25日に執り行い、5月13日からの磁気探査により待望の1期工事が始まりました。1期工事は平成27年6月に竣工予定です。

2期工事については、8月半ばから工事を始め、28年5月に全ての工事が完成の予定です。本工事により昭和51年から56年にかけて建築された琉球病院の建物の殆どが、新しく生まれ変わります。

そして、1期及び2期の工事が完了する2年後には、3期工事として給食棟の建替工事を計画しています。

計画から完成まで5年という歳月を要する念願の一大プロジェクトが始まりました。

完成までの間、患者様、近隣住民の皆様には騒音や駐車場等でご迷惑、ご不便をおかけいたしますが、これからも変わらず「この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である」という当院の基本理念を忠実に実践してまいります。何とぞご理解とご協力をお願いいたします。



診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
ユニット 4床
- ・重症心身
障がい 80床
- ・医療観察法 37床



那覇市からのアクセス

●アクセス
路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス
[77番名護東線(浜田)バス]下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
進捗状況 本体内工事：請負業者
電気設備 (株)九電工
機械設備 (株)三建設備工業
建築(第1期)工事 (株)浅沼組
建築(第2期)工事 (株)浅沼組

教育・研修

- 平成27年度採用看護職員就職説明会 平成26年6月7日(土) 福岡会場(アクロス福岡)
- 「琉球病院チャーム祭」平成26年6月12日(木) 10:00~15:00 於:あしびなあ体育館
~宮古クイチャー踊り、西病棟太鼓、カラオケ他~
- 「CVPPP(包括的暴力防止プログラム)研修」平成26年6月9日(月)~12日(4日間) 対象:新規採用者職員等
~理論編(リスクアセスメント・ディエスカレーション他)・実技編~
- 第3回 琉球病院映画祭「アフガニスタン干ばつの大地に用水路を開く」
(第1回沖縄平和賞受賞者、中村哲医師とベンチャー会の30年の軌跡)
平成26年6月14日(土) 14:00~16:45 市町村自治会館 大ホール(300名予定) 無料

地域医療連携室だより

当院では地域生活支援の一環として訪問看護を実施しています。なかでも、重症の患者様に関してはより手厚い支援をできるよう、通常訪問看護に加え、他職種チームが1チーム発足しております。病状が重く、なかなか地域生活が定着しきれない患者様に向けて、心理教育・就労支援・生活指導といったより密着した支援の提供をしております。患者様の持っている能力と希望に寄り添うことを目標に、日々の医療を提供しております。

開催日:毎月第2、4金曜日(祝祭日はお休み) 14時~15時半 問い合わせ先:北1病棟又は地域医療連携室



空床状況
5月26日現在

精神科病棟
8床

認知症
3床

アルコール
3床

児童思春期ユニット
2床

※入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30~17:15(土・日・祝日以外)
TEL:098-968-2133(代)
内線:231・234
FAX:098-968-7370
地域医療連携室直通

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目の投与を開始し、全症例は113例になりました。4月の新規導入は1例でした。重度の精神症状を持った患者様が回復され、その退院数も40例を超えています。クロザピン専門外来も3回/週行っており、患者様のご相談をお待ちしています。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成26年4月の治療実績3例であり、各症例とも改善傾向が認められております。



こども心療科

先月号でご紹介したこども心療科待合室と隣接した場所にウッドデッキが設置されました。屋外でのびのびと遊ぶことができ、こどもたちにとっても好評なスペースです。天気の良い日はウッドデッキでキャッチボールをしたり、お話しするスペースとして活用されています。ウッドデッキ上方にある木から落ちてきた実を拾い、「くわの実だ」と喜ぶこどももいました。今後はバスケットボールのリングが設置される予定になっています。こどもたちの発想は柔軟でとても豊かです。これからこの場所でどんな遊びが展開されるのかスタッフも楽しみです。

認知症医療

<認知症治療薬について>

当院では、認知症の治療薬として、アルツハイマー型認知症に使用される代表的なお薬であるアリセプト(ドネペジル塩酸塩)をはじめ、新薬のメマリー(メマンチン塩酸塩)、貼付タイプのイクセロンパッチ(リバスチグミン)、口腔内崩壊錠のレミニールOD錠(ガラントミン)の4種類があり、これら4種類の中から、患者様に合ったお薬が処方されるようになりました。病棟で治療中の患者様も、これらのお薬を1種類から2種類を併用使用し、認知症の心理・行動症状(BPSD)の改善を図っています。入院当初の患者様は、これまでの環境との変化に戸惑い、心理・行動症状が一時的に悪化する場合がありますが、薬物療法と患者個別に合わせた看護・介護ケアの提供により、徐々に症状も改善し、穏やかに入院生活が送れるようになっていきます。認知症の薬物療法について、何かご質問等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。

重症心身障がい児医療

当病棟の利用者には、自傷行為というこだわりを持つ方が多くいます。重度の知的障がいをお持ちで自傷行為を呈する方々は、「自己への刺激」を自傷行為によって満たしている可能性があります。人は外部からの刺激(ex.視覚・聴覚・触覚への刺激など)を受容することで、脳内に電気信号を送り、感覚を作り出します。そう考えると、感覚(ex.見る、聞く、熱い、冷たい、痛いなど)を作り出すための自傷行為という誤った自己刺激の方法を、他の行動へ変えていく働きかけが必要となります。そのための第一は、利用者の方が好まれること・こだわることを体験し、様々な刺激を受ける機会を設ける必要があります。重症心身障がい病棟で行っている療育活動や様々な行事は、こうした刺激を受容できる機会という意味でも、意義深いものにしきたいと考えます。 療育指導室・守山

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では4月現在、外来通院の患者様51名、入院中の患者様20名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入をすすめています。断酒が困難な方は、ぜひ外来に受診し相談して下さい。

<平成26年度 第4回 HAPPYプログラム研修会のお知らせ>

平成26年6月13日(金)に、平成26年度 第4回 HAPPYプログラム研修会を、当院にて開催致します。HAPPYプログラムとは、減酒支援のための包括的なプログラムです。佐賀県の肥前精神医療センターが開発し、毎年1回全国を対象に研修会を開催しています。当院では肥前精神医療センターと共催で、同一の研修会を、沖縄県の健康管理に携わる方を対象に開催しております。厚生労働省は、昨年初めて「特定保健指導における減酒支援」を盛り込んだ保健指導マニュアルを作成しました。今年4月に発表された「健康長寿おきなわ復活県民会議」の目標でも、定期的な健康診断の受診、肥満の解消に加え、「適正飲酒」を掲げています。まさに、減酒支援は今後ますます必要とされるスキルです。この機会にぜひ当院の研修会をご受講下さい。

包括的地域精神医療 (ACT)

沖縄は梅雨入りし、これから蒸し暑い真夏日を迎えようとしています。訪問看護は毎日、中部・北部地区へ訪問を行っています。これからの時期は精神症状の見守り以外に、生活環境を確認をします。暑い状況で窓を開けず、閉め切った自宅で過ごしていないか、食べ物の保管状況(食中毒)等の点にも注意して見守りを行ないます。訪問宅で季節に合う快適温度で過ごせて貰えたら良いのですが、冷房のない家庭もたくさんあります。真夏日は冷房の効いた公的機関や、近隣の地域活動支援センター等で過ごすことも1つの方法であると勧めています。地域の皆さまで暑い夏を涼しく過ごせる場所があれば、是非訪問看護へ紹介ください。

臨床研究部活動状況 — 臨床心理学研究室より —

【第10回司法精神医学会大会】

去った平成26年5月16日・17日に、沖縄県男女協同参画センター「ていりる」にて、第10回司法精神医学会大会が開催されました。地方開催でしたが、参加者は県内外から300名を超え、多くのみなさんに参加していただきました。一般演題では、58題の発表があり、シンポジウムでは「医療観察法成立後10年 司法精神医学は変わりえたか」をテーマに、熱い議論が交わされました。特別講演では東京大学名誉教授、松下正明先生(写真)に学会設立や医療観察法成立の経緯、司法精神医学会が担う役割、そして司法精神医学のこれらについてご講演いただきました。大会は盛会のうちに終えることができ、ご参加ならびにご協力いただきました方々に感謝申し上げます。

